



2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
RCは分かちあいの心
2007～2008年度
ウィルフレッド J. ウィルキンソン

Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：岩本 成郎
幹事：西本 哲
クラブ広報委員長：亀井 直人
例会日：毎週木曜日PM12:30～
会場：ビルトシ名古屋
事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ビルトシ名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1329回例会

～会員増強及び拡大月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2007年8月2日(木) 晴 第5回

司会：岩崎道夫会場副委員長
斉唱：「君が代」「奉仕の理想」
ゲスト：スズサン代表 村瀬 裕さん
ビジター：名古屋南RC 近藤 禎男さん

会長挨拶 岩本成郎会長

皆さんこんにちは。今日は8月の2日、今年度スタートからひと月が過ぎ正に時の流れの早さを感じました。



さて、昔の例え話ですが江戸時代の中期に全国のおよそ四百の民謡を集めた(山家鳥虫歌)の中に次の歌があります。

山が焼けるぞ立たぬか雉子よ、これが立たりよか子を置いて。

巢を営んでいる野を焼かれるとキジは危険をもちかえりみずひなを救うため巣に戻るという、子供に対するそんな思いの深さを表した歌です。焼野の雉子と夜の鶴のことわざがあるように鶴も情愛が深く、ひなのいる鶴は霜の降る寒い夜、自分の翼で子供を覆って温めると言います。

このことわざは実話がいくつも報告されてきたので事実に基づく表現ですが、それに比べ人の世は心重くする親子の知らせ、道徳教育が強く思われます。

又世間では格差及びワーキングプアがはやり言葉になっている今日この頃ですが、その昔、井原西鶴(本名：平山藤五)が江戸前期の頃、数多くの浮世草子の名作を世に送り出し近世文学の大家として名を成しました。「武家義理物語、世間胸算用、西鶴置土産」などの名作が思い出されます。その西鶴がその時すでに商法の三つの約束事(才覚、算用、始末)を指摘し、それは元禄中の頃と記されています。

始末は節約(最近もったいない言葉がはやりですが)の事、才覚は創意工夫の事、算用は採算のとれる計算の事であり、現代の企業に最も大切なキーワードを残しています。

ロータリアンとして大切な事は奉仕ですが、そのためには職業を重視する事が一番必要な事とされています。今一度、四つのテストを見て行きたいと思えます。

出席報告 加納 裕出席委員長

会員72名 出席51名 (出席計算人数50名)
出席率82.0% 7月26日は補填により 91.84%

幹事報告 西本 哲幹事

- ・本日例会終了後、13時35分より4階「梅の間」にて第2回理事会を開催致します。出席義務者はよろしく願います。
- ・本日クラブ計画書をお渡し致しましたが、まだお持ちでない方及び住所等で訂正する所がある方は事務局迄ご連絡下さい。

臨時例会変更のお知らせ

名古屋	8/14(火)※			
名古屋西	8/16(木)※			
名古屋南	8/15(水)※		8/29(水)	
名古屋北	8/17(金)※			
名古屋東	8/13(月)※			9/3(月)
名古屋守山	8/15(水)※			
名古屋中	8/13(月)※			
名古屋和合	8/15(水)※			
名古屋名東	8/14(火)※			
名古屋名北	8/15(水)※	8/22(水)		
名古屋千種	8/14(火)※	8/21(火)		
名古屋大須	8/16(木)※			
名古屋栄	8/13(月)※		8/27(月)◆	
名古屋名南	8/14(火)※	8/21(火)※		
名古屋名駅	8/15(水)※			
名古屋昭和	8/13(月)※		8/27(月)	9/3(月)
名古屋西南	8/16(木)※			
名古屋錦	8/14(火)※			
名古屋東山	8/16(木)※	8/23(木)		
名古屋葵	8/16(木)※			
名古屋空港	8/13(月)※			
あま	8/13(月)※	8/20(月)		
名古屋清須	8/14(火)※			
尾張中央	8/15(水)※			
名古屋城北	8/14(火)※		8/28(火)	

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。
◆はサイン受付時間が17:00～18:00となります。

ニコボックス 加納 裕ニコボックス委員長

- ・生年月日は1922年8月1日です。江口 金満さん
- ・8月12日 67歳の誕生日です。大島 浩嗣さん
- ・今月は誕生日月です。佐藤 善乙さん
- ・8月1日は妻の誕生日でした。結構な花をお贈り頂き有難うございました。梅田 朋嗣さん
- ・今月は妻の誕生日です。花をありがとうございました。加納 裕さん
- ・8月1日は妻の誕生日で可愛い花を有難うございました。鈴木 圓三さん
- ・第11代目傳四郎誕生。健やかに育って欲しいです。松岡 道弘さん

・欠席が続きまして。又、吉木先生に大変お世話になりました。

岡本 忠史さん

・先月野崎さんに大変お世話になりました。皆様暑中御見舞申し上げます。

稲葉 徹さん

・田口さんRC復帰を祝って。

長坂 邦雄さん

・先週台北に行ってきました。全く行動の自由はありませんでした。

中川啓二朗さん

・久しぶりの例会出席です。休会中は関係の皆様にはご迷惑、ご心配をおかけしました。お詫びとお礼を申し上げます。まだ全力投球はできませんが、ボチボチと慣らしていきたいと思っています。

田口 豊さん

・本日の卓話を有松絞りで大変有名な村瀬裕さんをお願い致しました。よろしく願います。

渡辺喜代彦さん

・暑中御見舞申し上げます。

野崎 洋二さん

・親睦新旧の余りです。今年もよろしく願います。

新旧親睦活動委員会一同

8月誕生日おめでとう

江口 金満さん	舘 健吾さん	大島 浩嗣さん
岡本 忠史さん	佐藤 善乙さん	山田 鎮浩さん
田口 豊さん	西 初彦さん	

卓話

スズサン代表 村瀬 裕さん

伝統と革新～現代に生きる絞り～



私は今、緑区有松で絞りの家業を行っております。テーマは「有松鳴海絞り」です。一般的な絞りと、技術を生かした新しい方向性、それがまさに現代に生きる絞りではないかというをお話させていただきます。

まずは、「絞りとは何ぞや?」というお話です。「絞り」という言葉は大変身近な言葉です。例えば、カメラのシャッターを切るときの「絞り」、お風呂でタオルを「絞る」、トヨタで車体を作ることも「絞る」という言葉を使っていると聞きました。

我々が使う「絞り」は染色技法の一つです。「お風呂でタオルを絞る」は水を切る作業ですが、これを染色液に浸けると模様ができます。自然発生的な染色方法の一つです。有史以来、古い歴史のある技術ですが、これが世界に点在しております。絞りが発祥した場所は、インド・蒙古チベット・アフリカ・ペルーのアンデス・中国・インドネシアで、これが世界の六大産地としてあります。インドではサリーという民族衣装に、蒙古チベットでは寒い地方なので山羊の種類の毛を使って絨毯を、アフリカでは全土に分布している藍染めの絞り、アンデスではマチュピチュにあるインカ文明を生かして細かい絞り、中国ではトルハンという地域に古い資料が残っておりますが、絞りと刺繍を生かした絞りが、インドネシアはインドの絞りによく似ていますが、日本で言う鹿の子絞りのような絞りがあり、これが六大産地の絞りです。今残っているのはインドで、他は点在していつてしまいました。日本の絞りはどうかと言いますと、有松鳴海絞りが中心にあります。京都、大分県豊後、秋田県浅舞、新潟県白根、岩手県盛岡などに点在しておりました。世界は2000年以上の歴史ですが、日本の絞りは飛鳥時代(600年代)に作られた絞りです。鎌倉・室町時代には武将が着るような衣装にも施され、桃山時代には絞りと言葉を融合させた革新的な絞りが出てきました。江戸時代には振り袖などに、豪華な絞りが施されました。京都を中心とした技術として広まってきました。京都以外の地域ではカジュアルなものとして、盛岡では南部紫紺染めが出てきました。有松鳴海絞りがカジュアルなものとして出てきました。有松は来年で開村400年になります。1608年に有松ができました。その村を発展させる目的で絞りができました。絞りを開発したのは阿久比から来た竹田庄九郎です。30年ほど

前に伝統工芸とされてから「有松鳴海絞り」と名称を変えております。絞りの浴衣が発展した背景には、半田の三河木綿があったことや、地形があまりにも勾配して田畑が出来なかったことから、東海道を旅する人たちに土産物として絞りが始まりました。名古屋城の築城の為に大分から来ていた職人さんが絞りの模様を着ていて、それを産業としてアレンジして開発したのが有松鳴海絞りの始まりです。一番初めは手ぬぐいで、これが大変有名になり、弥次喜多も旅の途中に買おうとしたけれど高く買えないほど高価なものでした。それを身近なものにしようと創意工夫をしました。有松鳴海絞りの技術は世界に誇れる有名なものです。非常に単純なものです。アレンジして100種類以上のたくさんの絞りができ、世界に類のない絞りの産地となりました。基本的に絞りは、単純に縫う・くくる・巻くの3つの作業です。これを先人達の創意工夫で100種類以上の種類ができましたが、今は技術が退化して30～40種類しかできなくなりました。有松鳴海絞りは道具を使うことによって革新的な絞りを作り出しました。殆どが手だけで絞るのですが、有松鳴海絞りはここに道具を導入し、能率と綺麗さに革新的な技術を開発しました。世界に絞りが点在する中で、有松鳴海絞りは絞りの原点と思われております。そして、模様も斬新なものが多いです。現代では浴衣の産地として日本のみならず、世界に誇る産地です。着物離れしていく中で洋服にシフトしていきました。タペストリーやパーテーション・クッションなどインテリアにも進んでいきました。それから今、新しい絞りとしてアルミの絞りやガラスの絞りがあります。正に絞るという行為から知恵を絞ってできました。1992年に国際絞り会議が始まりました。世界から20カ国850名の参加で、絞りの新しい概念・伝統を「絞りは新しい時代を作る」というテーマで行っています。絞り以外の人たち(学者・IT関係・車やインテリアのデザイナー)も参加してシンポジウムをしました。そこで布だけでなく異素材にも絞りをという概念が生まれました。この会議によって、色んな人にとって、世界にこんなものがあるのかと目の当たりにして意識の改革が起こりました。国際絞り会議が私にとってのターニングポイントになりました。1996年第2回はインドの絞りの原点アムダバートで、3回目はチリのサンチアゴで、4回目はイギリスのハロゲートで、オーストラリア・メルボルンなどでも絞り会議が行われて、6回目は日本の多摩で行われ、そのあと、ミラノでの展示会、東京での展示会が行われました。万博の会場でも展示会を行いました。私の作った商品でグッドデザイン賞をいただいた、光触媒という技術を生かして照明の美しさを表した照明器具があります。来年はこれを持ってフランクフルトのアンビエンテにも参加してきます。絞りには、シェイプレジスト(形の立体的な美しさ)・グラデーションオブダイイングエッジ(絞りの染め際のぼけの美しさ)・トランスペアレンシー(透過性の美しさ)という3つの概念があります。

伝統産業というと、よく高齢化して灯火の消えたもののように言われますが、決してそうではなく、伝承された技術と最先端の技術を融合させて、それを進化させていくことにより、現代に生きる絞りができるのでは、技術をどうやって生かすかということに常に研究しております。今日のロータリーの諸先輩の皆様からの知識を情報として得ながら、絞りを何に生かしたらいいか、常に可能性を追求しています。こういったものを作り続けること、これが正に現代に生きる絞りではないかと思えます。そして、400年続いた絞りの産地が、500年・600年と続いていく絞りとなっていくことを大いに期待したいと思っております。

今週卓話

8月9日(木)

テーマ:「会員増強は四大奉仕活動の基盤である」

卓話講師:2007～2008年度R1第2760地区会員増強委員長 菊岡 深智子さん

次週予定

8月16日(木)

休会 (R規定に基づき)

次々週卓話

8月23日(木)

テーマ:「ココをおさえるとヨーロッパ美術がもっと面白くなる」～近代美術の流れ～

卓話講師:シャロンアート代表 柏岡 恵理さん